

2026-1-15 (第1125.26回)

今週のプログラム

≪1月15日(木) 例会 KKRホテル大阪6階「桐」≫

- ◎ 新 年 会
会 費：8,000円

♪本日の歌 「君が代」「四つのテスト」

次回の予定

≪1月22日(木) 例会 KKRホテル大阪5階「瑞宝」≫

- ◎ 卓 話 「未 定」

谷口 明君

前回の出席率

≪12月11日(木) 例会 ≫

会員数14名(内出席免除者数1名)
本日の出席者数6名(内出席免除者数0名)
本日の出席率 42.9%

≪12月21日(日) クリスマス家族会 ≫

会員数14名(内出席免除者数1名)
本日の出席者数7名(内出席免除者数0名)
本日の出席率 53.8%

幹事報告

副幹事 井上善博君

- ◎本日は、この後新年会となっております。
- ◎IMロータリーデーのPRに東大阪西RCの竹谷裕人会長と吉村 篤幹事がお越しになっています。後ほどPR宜しくお願い致します
- ◎例会前に、定例理事会を行いました。

会長の時間

会長 北井孝彦君

(12/11)

- 皆さん、こんばんは。今日は、「新年に向けてのしきたり」について纏めてみたいと思います。
- 大掃除いつする→12月13日 「正月事始め」
 - ・意味：新年に年神様を迎えるための準備を始める日。家を清め、正月飾りやおせちの支度に着手する節目の日。
 - ・由来：江戸時代、旧暦12月13日は「鬼宿日(きしゅくにち)」と呼ばれ、婚礼以外はすべて吉とされる最良の日だったため、この日を事始めとした。
 - ・日付：新暦導入後もそのまま引き継がれ、現在も毎年12月13日。
- 習わしと行事
 - ・煤払い(すすはらい)
江戸城で行われていた行事に由来。囲炉裏やかまどの煤を落とし、家を清めることで年神様を迎える準備を整える。現代では大掃除の起源とされる。
 - ・松迎え(まつむかえ)
門松に使う松やおせち料理の薪を山へ取りに行く習慣。年男が恵方の方角へ行く風習もあった。現在はほとんど行われなくなった。
 - ・正月飾りの準備
門松、しめ飾り、鏡餅などを用意する時期の始まり。

幸せには三つあると言われます。一つ目の幸せは、してもらう幸せ。二つ目は、自分でできる幸せ。三つ目は、して差しあげる幸せです。三つの幸せの中でも、最も大きな幸せが、三つ目のして差し上げる幸せです。ロータリーの「よいことをしよう」こそ、三つ目の幸せです。

飾り付けは12月28日～30日が良いとされ、29日（二重苦）や31日（一夜飾り）は避ける。

○お歳暮との関係

- ・お歳暮はもともと、正月に先祖や神様を迎えるための供え物を贈る風習から始まった。
- ・関西地方では正月事始めの12月13日から贈り始める習慣が残っている。

○神棚のお札の期限はある？

- ・一年かんです。

○神社参拝

- ・二拝二拍手（四拍手）一拝 ※拍手（かしわで）
上座と下座 偉いのはどっち？
右大臣と左大臣 偉いのはどっち？
左を上位としますので「右手」を下げ「左手」が上となります。

○正しい参拝方法

- ①鳥居をくぐる前に一礼
- ②参道は端を歩く（真ん中（正中）は神様の通り道）
- ③手水舎で手と口を清める ※最後にひしゃくを立てて水を柄に流して洗う
※手水舎でも最初と最後に「一拝一拍手一拝」が丁寧
- ④神前に着いたら 会釈→二拝（90度）→感謝祈願→二拝二拍手（四拍手）→一拝→会釈
- ⑤鳥居を出て 一礼
となります。

（12/21）会長の時間（クリスマス家族会）

皆さん、こんばんは。今日は、「クリスマス家族会」ですが、明日12月22日は「冬至」ですので冬至について少しお話ししたいと思います。

冬至は、「一年で一番夜が長く、一番昼が短い日」です。よって、明日から陽が長くなる太陽復活の日といわれ、易経では「陰が極まり、ふたたび陽に転じる」ことから、どの民族でも民衆はこの日を喜びお祝いをした日でした。



インカ、マヤ、エジプト、マチピチュ、伊勢神宮でも、この日の太陽を拝めるような工夫がなされていきました。伊勢神宮では内宮に詣る宇治橋の大鳥居の中心にくるように設計されていました。また、インカや、マヤ等の古代文明の王様の居室に唐人の日の朝日が差し込むように設計されていました。

このことは、統治者がどれだけこの日を重要視していたかわかります。この日に皆で感謝して祈ると素晴らしいことが起こると。ところが、権力者はわざと暦のこの日をずらしてみんしゅうにちからをあたえないようにしたのです。10日ぐらいずらしてお正月1月1日とした。西洋のキリスト教圏では、この日に近い25日をキリストの誕生をお祝いする日としてクリスマスに皆が集まってお祝いをしていたのでした。

日本の冬至には、ゆず湯「冬至」「湯治」に入りました。また、ゆず＝黄色の果物＝魔除けの色＝邪気が払われ、禊ぎの意味もありました。

ゆずの数は何個入れる？奇数が陽、偶数が陰とされましたので奇数入れるように言われました。

12月は「子の月」といわれます。これは一年が終わり始まるという意味です（「了（おわり）」＋「一（はじめ）」）。

「運盛り」といって「ん」のつく食べものには、運がいっぱいあるとして、みかん・大根・にんじん・蓮根・銀杏・キンカン・カボチャ（南京）などが食されてきました。

卓話抄録

『自己紹介』

米山奨学生 許 喬仔さん

みなさま、本日はお時間をいただきまして、誠に有難うございます。

この場をお借りして、私の生い立ちや故郷についてお話しさせていただきます。

私は台湾南部の高雄で生まれ、その後、隣接する台南で育ちました。二つの都市は距離こそ近いものの、それぞれ異なる魅力と雰囲気を持ち、私にとってどちらも大切な“故郷”でございます。

まず、私が生まれた高雄は、台湾第二の都市であり、古くから港町として発展してまいりました。広大な港、美しい海岸線、そして近年では芸術文化の拠点としても注目されております。

幸せには三つあると言われます。一つ目の幸せは、してもらう幸せ。
二つ目は、自分でできる幸せ。三つ目は、して差しあげる幸せです。
三つの幸せの中でも、最も大きな幸せが、三つ目のして差し上げる幸せです。
ロータリーの「よいことをしよう」こそ、三つ目の幸せです。

その後、家族と共に移り住んだ台南は、台湾で最も歴史のある街のひとつです。伝統的な街並みや古跡が数多く残り、「台湾の京都」と称されることもございます。台南での暮らしは、私の価値観や人との接し方に大きな影響を与えました。地域の方々はとても温厚で親切であり、子どもの頃から「人とのつながりの大切さ」を自然と学ぶことができました。穏やかな人柄とゆったりとした生活文化の中で育ったことは、今の私の根本を形づくる大切な要素となっています。高雄で生まれ、台南で育ったという経験は、私に多様な価値観や視点を与えてくれました。活気あふれる高雄と、歴史と温かさに満ちた台南。この二つの街の空気の中で成長したことが、私のアイデンティティを形づくる重要な一部分となっています。そうした背景があるからこそ、新しい環境にも前向きに適応し、人との繋がりを大切にし、自分のそう

した背景があるからこそ、新しい環境にも前向きに適応し、人との繋がりを大切にし、自分のルーツを誇りに思う心を育むことができました。これからも私は、高雄と台南という二つの故郷で得た経験を大切にしながら、様々な場での出会いや学びを積み重ねていきたいと思っております。本日は、私の拙い話に耳を傾けていただき、誠にありがとうございました。

ニコニコ箱の報告

例会担当委員会

本日合計 7,000 円 今年度累計 242,070 円



本日のお祝い

会員交流委員会

◎会員のお誕生日 1月18日 小寺史郎君
◎奥様のお誕生日 1月6日 山村奈美子様

年末家族会

12月21日(日)、KKRホテル大阪14階「オリオン」にてクリスマス家族会を行いました。今年アメリカなどでも活躍しているボーカルのREMAH(レマ)さん、ジャズピアニストの岸本良平さんをお迎えし、またサプライズで山村さんのサクソ、井上さんのボーカルも一緒に楽しいコンサートとなりました。新しいご家族の紹介や恒例のビンゴゲームも大変盛り上がり、楽しい時間となりました。



**UNITE
FOR
GOOD**

2025-26年度 東大阪みどりRCテーマ

三つの幸せ

幸せには三つあると言われます。一つ目の幸せは、してもらう幸せ。
二つ目は、自分でできる幸せ。三つ目は、して差しあげる幸せです。
三つの幸せの中でも、最も大きな幸せが、三つ目のして差し上げる幸せです。
ロータリーの「よいことをしよう」こそ、三つ目の幸せです。

